

原発事故と廃炉作業の現在を学ぶ

建設運輸エネルギー部会 福島第一原子力発電所視察

5月27日（火）、建設運輸エネルギー部会の主催による「福島第一原子力発電所視察」が開催された。参加者は部会員を中心とする36名で、館林市よりバスで視察先の福島県浜通りエリアへと移動した。

午前11時30分「廃炉資料館」到着。館内にて東京電力㈱の担当者より東日本大震災発生～福島第一原発原子炉爆発事故が起きるまでの経緯と説明の後、館内の巨大モニターにより事故当時の映像等も流された。

その後、廃炉資料館から「福島第一原子力発電所」へ移動。道中、事故当時立入禁止区域だった景色を眺めながら、当時の様子についても説明がなされた。



福島第一原子力発電所に到着後、構内の研修室にて発電所の視察ルートの説明・持ち物や身分の確認等厳重なチェックを受けた後、視察専用バスにて構内の視察を開始。東京ドーム75個分の広さのある施設内を、約1時間半かけて視察を行った。

1～4号機エリアでは爆発事故当時の状態のままの原子炉建屋を至近距離にて見学することができ、今後の廃炉に向けた作業の工程等詳細に説明がなされた。また、5・6号機エリアでは、新設された海側遮水壁の見学、処理水の排水設備の構造の説明等がなされた。

最後に、研修棟に戻り被ばく線量の各自測定を経て、研修室にて質疑応答が行われ、視察の全行程が終了となった。



市内事業者の後継者不足に対応

館林市中小企業・小規模事業者事業承継促進に関する連携協定締結式

6月25日（水）、館林市役所において「館林市中小企業・小規模事業者の事業承継に関する連結協定締結式」が開催された。同協定は、館林商工会議所および、館林市、館林信用金庫が令和2年度より締結している「包括的連携協定」に加え、事業承継プラットフォームを運営する㈱トランビによるもので、市内の中小企業・小規模事業者の事業承継を促進することを目的としている。

協定の締結に際し正田会頭は、「商工会議所にとっても事業承継は大きな課題となっている。今回の協定により、行政の力や全国的なネットワークが加わることで、より多くの悩みを抱える事業者を見つけ出していきたい。今回の締結は第一歩、今後はより連携を深めて支援を拡大していきたい」と話した。



「会員のひろば」で 自社をPRしませんか？

当所では会報「商工たてばやし」の、会員紹介コーナー「会員のひろば」に掲載を希望する事業所を募集しています。当会報は、会員事業所約1,300箇所に加え、諸官庁や関係団体にも配布しているほか、当所ホームページでも公開しております。会社やお店、自慢の製品やサービスなどを館林中にPRしてみませんか？

掲載料は無料となりますので、この機会にぜひご利用ください！

本件に関する
お問い合わせは
館林商工会議所
会報担当者
(Tel. 74-5
121) まで。

